

保護者の皆様へ

令和6年度 全国学力・学習状況調査の市全体の結果について

袋井市では、幼小中一貫教育の仕組みを生かし、子どもたちの「考える力」を育むための授業づくりを進めています。子どもたちは学習課題と向き合い、問いに対する様々な考えを「関係付け」ながら自分自身の納得のいく考えを見出していきます。

この調査では、子どもたちの学力だけでなく、日々の生活や学習の状況調査も行っています。それにより、規則正しい生活習慣や学習習慣と、子どもたちの学力との関係性が明らかになりました。学校・家庭・地域が一体となって子どもたちを支援していくことが、子どもたちの成長には欠かせません。保護者の皆様のお力添えをどうぞよろしくお願いいたします。

本年度の調査結果と分析
について説明します。



I 調査の概要

- (1) 実施日 令和6年4月18日(木)
- (2) 対象 小学校6年生(820名)、中学校3年生(819名)
- (3) 実施内容 国語・算数(数学)・学習状況調査
- (4) 調査問題 国立教育政策研究所HPで公開

<https://www.nier.go.jp/24chousa/24chousa.htm>



学力調査は、子どもたちが身に付けるべき学力の一部を測定したものです。すべての学力を表したものではありません。

学習状況調査とは、子どもたち自身の学習に対する意識や、日常生活習慣等の実態について調査したものです。

2 学力調査と学習状況調査の結果

(1) 学力調査

教科	小学校		中学校	
	国語 (14問)	算数 (16問)	国語 (15問)	数学 (16問)
袋井市	64	58	57	52
全国	67.7	63.4	58.1	52.5

※ 袋井市の結果については、整数での集計となっています。上の結果は、問題の軽重に関係なく、全問題のうちの正答した割合(平均正答率)を示したものです。

(2) 記述式問題の無解答率

ア 国語

設問	小学校		中学校		
	2二	3三	1四	2四	3四
袋井市	6.1	17.8	9.8	8.4	14.7
全国	4.9	12.6	9.9	8.4	15.0

※ 解答用紙に何も書けていない児童生徒の割合が高いと無解答率が高くなります。

イ 算数・数学

設問	小学校				中学校				
	2(1)	3(4)	4(3)	5(3)	6(2)	6(3)	7(2)	8(2)	9(1)
袋井市	3.8	3.4	5.0	16.6	24.2	33.0	29.1	21.4	34.7
全国	3.4	1.8	2.4	12.6	23.5	29.6	29.4	16.4	33.6

※ 解答用紙に何も書けていない児童生徒の割合が高いと無解答率が高くなります。

(3) 学習状況調査

ア 肯定的な回答の割合が(全国と比べて)高かった主な項目

設問	小学校		中学校	
	袋井市	全国比	袋井市	全国比
自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	78.0	+2.2	81.6	+5.4
自分にはよいところがあると思いますか	85.5	+1.4	85.5	+2.2
人が困っているときは、進んで助けていますか	93.9	+1.2	91.6	+1.5
地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか	83.9	+0.4	79.3	+3.2
前年度までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたか(ほぼ毎日・週3回以上)	76.9	+17.4	87.4	+23.0

※ 上記の結果は、肯定的な回答をした児童生徒の割合を示したものです。

イ 肯定的な回答の割合が（全国と比べて）低かった主な項目

設問	小学校		中学校	
	袋井市	全国比	袋井市	全国比
学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか（2時間以上）	18.1	-5.4	28.4	-3.3
解答時間は十分ではなかった（国語）	37.7	-10.0	33.9	-11.4
解答時間は十分ではなかった（算数・数学）	19.2	-6.2	33.2	-8.8

※ 上記の結果は、肯定的な回答をした児童生徒の割合を示したものです。

3 分析

（1）学力調査の結果から

小学校	国語	○文章の内容を正しく説明したり、適切に理由や原因を述べたりしている選択肢を選ぶ問題は、他の問題と比べて正答率が高い。 ●複数の情報を関連付けて 決められた条件を満たしながら自分の考えを書く 問題は、他の問題と比べて正答率が低く、無解答率が高い。
	算数	○問題場面を式で表して計算したり、グラフから情報を読み取って処理したりする問題は、他の問題と比べ正答率が高い。 ● 図形を処理したり、根拠を示し、決められた条件を満たしながら自分の言葉で説明したりする 問題は、他の問題と比べ正答率が低く、無解答率が高い。

中学校	国語	○平仮名を漢字に直したり、文章の内容を適切に説明や要約している選択肢を選んだりする問題は、他の問題と比べて正答率が高い。 ●文章の内容を読み取ったり解釈したりして、 示された条件を満たしながら自分で書く 問題は、他の問題と比べて正答率が低い。
	数学	○座標の値や確率、最頻値等を求める短答式の問題は、他の問題と比べ正答率が高い。 ● 記述された内容を解釈し、数式やグラフ等を用いて説明する 問題は、他の問題と比べ正答率が低い。

（2）正答率が高い児童生徒に見られる学習状況の傾向 （学力調査と学習状況調査の結果より）

ア 家庭生活や児童生徒に関すること

- ・朝食を毎朝食べている
- ・普段（月曜日から金曜日）、携帯電話やスマートフォン SNS や動画を視聴する時間が少ない
- ・家にたくさんの本がある
- ・人の役に立つ人間になりたい
- ・自分と違う意見について考えるのは楽しい

⇒情報機器の自己管理と規則正しい生活が学力の基礎になると考えられます。

⇒読書の機会を増やし、新しい情報を得たり語彙を増やしたりすることは、読解力と「考える力」を身に付けていくための基礎になると考えられます。

⇒人の役に立ちたいという思いは、良い人間関係を築くことに役立ちます。人との関係が良好であれば、対話や議論を楽しむことができ、自分の考えを広げたり深めたりすることができます。

イ 主に学び方に関すること

- ・分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫している
- ・授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる

⇒自分で学びを考えて工夫することで、個の学びが充実します。お互いに協力しながら課題の解決に取り組むことで、協働的な学びが実現します。これにより、確かな学力が育まれると考えられます。

ウ 主に授業に関すること

- ・国語・算数（数学）の勉強は好き
- ・数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えている
- ・授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた
- ・授業では、各教科等で学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた

⇒分からなくてもあきらめずに試行錯誤することや、課題の解決に向けて自分から取り組み、学んだことを生かしながら自分なりにまとめる経験により、知識・技能の定着に加えて、「考える力」が育まれていきます。また、課題を追究しようとする主体性も培われます。

4 今後の取組

子どもたちの思考の深まり広がり・思考スキル・追究する姿勢といった「考える力」を育てていくために、袋井市では「『袋井型』授業づくり」に取り組んでいます。これは以下の3つの要素を大切にして授業計画を立て、実践することです。

- ・子どもが考えたくなるような、「？型の学習課題」を設定する
- ・自分自身の考えを深めるために、「対話や議論」の場を設定する
- ・学習課題に対し、自分自身の納得のいく考え（納得解）を書く「個のまとめ」の時間を設定する

学力・学習状況調査の結果から、袋井市の子どもたちは、他者のことにも目を向け行動しようとする姿勢が育っていることが分かりました。日々の授業において、他者との関わりを大切にした対話や議論の場をさらに充実したものとするとともに、自分自身の納得のいく考え（納得解）を表出する「個のまとめ」の徹底を図ることで、子どもたち一人ひとりが自分の思いや考えをアウトプットすることに重点を置いた授業改善をさらに進めていきます。

家庭での過ごし方についても、ぜひ
お子さんと話し合ってみてください。

